

レモンの苗木育成に関するFAQ（よくある質問）

by 栗山

2026年10月24日

高つきレモン

💧 水やりに関するFAQ

Q1. 鉢植えの場合、季節ごとの水やりの目安は？ 水やりの適切な頻度とタイミングは？

土の表面が乾いたら、鉢底から水が流れ出るまでたっぷりと与えるのが基本です。

冬（1～2月）：週に1回程度、朝に水をあげる。鉢は軒下や室内に移動。地植えは不織布で保護。

春（3～4月）：2～3日に1回、朝に水をあげる。

初夏（5～6月）：毎日、朝に水をあげる。

夏（7～8月）：毎日、朝・夕の2回。日中の猛暑で土がカラカラになるのを防ぎます。水切れに注意。

秋（9～10月）：毎日、朝に水をあげる。

初冬（11～12月）：2～3日に1回、朝に水をあげる。あげすぎは根腐れ発生。防寒対策もする。

Q2. 地植え（露地植え）の場合、水やりは必要ですか？

根付いた後は、基本的に雨水だけで十分です。

例外：植え付け直後の数ヶ月間や、夏場に何日も雨が降らず土がひび割れるほど

乾燥している場合は、株元にたっぷりと水を注いでください。

☀ 置き場・日当たり（半日陰）に関するFAQ

Q3. 苗木の置き場所はどこが良いですか？ 日陰の場所でもレモンは育ちますか？

日陰でも育てられますが、日向に比べると「枝の伸びが遅い」「花付き・実付きが悪くなる」傾向がある。

対策：できる限り日当たりの良い場所（1日4時間以上日光が当たる場所）が理想です。どうしても

移動できない場合は、剪定で株の内側まで光が入るように工夫し、肥料を補って花付きを助けます。

Q4. 西日が強く当たる場所は避けた方が良いですか？

夏の強烈な西日は鉢内の温度を急上昇させ、根を傷める原因になり、午前日向、午後日陰が良い

対策：鉢植えの場合は、夏の間だけ西日が遮られる場所に移動させるか、よしずなどで遮光します。

地植えの場合は、株元にマルチングを厚めにして直射日光による地温上昇と乾燥を防いでください。

💧 肥料やりに関するFAQ

Q5. レモンの木に元気ありません。水だけあげてます、肥料をあげるのですか？

レモンの木は他と比べると「肥料食い」と言われます。果樹は適切に肥料をあげないと実が付きません。

症状：葉っぱが黄色い、花が咲かない、花が咲いても実にならない、葉っぱが落ちるなどします。

対策：顆粒肥料花ごころレモンの肥料を3月、6月、9月、11月。液肥ハイポネックスを週1回あげる。

地植えの場合は鶏糞や油かすなどの有機質肥料をあげる。土壌をpH6前後になるように調整して。

毎日水をあげると「根腐れ」になります。毎日の水あげ習慣を見直し、乾いたら水をあげるように。

Q6. 肥料を与えすぎると、どうなりますか？

「肥料焼け」を起こし、根が傷んで葉が先端から枯れたり、最悪の場合は株全体が枯死してします。

症状：与えた直後に葉がしおれたり、黄色くなって落ちる場合は肥料過多のサインです。

対策：すぐに大量の水を注いで土の中の肥料成分を洗い流すか、新しい土へ植え替えてください。

特に鉢植えでは、規定量以上の肥料を一度に与えないよう注意が必要です。

🍂 葉の変色に関するFAQ

Q7. 葉が全体的に黄色っぽくなり、元気がありません。なぜですか？

「窒素・マグネシウム不足（栄養不足）」「根詰まり」「寒さ」のいずれかが主な原因です。

対策：肥料を長期間与えていない場合は「栄養不足」です。3月、6月、9月、11月に顆粒肥料を

与え、週1回の液肥ハイポネックスや、月1回の微量元素8を補うと回復が早まります。

4年以上植え替えていない鉢は「根詰まり」による根腐れ・酸欠かも、新しい土で植替えしましょう。

冬に黄色くなるのは寒さの一時的な生理現象が多く、春に気温が上がれば緑色に戻ります。

Q8. 葉の脈（筋）の間だけが黄色くなり、斑点（マダラ）模様のようになっています。なぜですか？

窒素不足ではなく、マグネシウムや亜鉛、鉄などの微量元素（ミネラル）不足のサインです。

対策：根が傷んでいて土から栄養を吸い上げにくくなっている可能性もあります。

即効性のある活力剤のリキダスと微量元素肥料の微量元素8を水やりと一緒に与えるか、

葉に直接スプレーする「葉面散布」を行うことで、数週間ほどで症状が改善されます。

害虫に関するFAQ

Q9. 春や秋に新芽がチリチリに縮れて、白い筋のような模様がついています。何ですか？

「ミカンハモグリガ（エカキムシ）」の幼虫が葉の内部を食べ進んだ跡です。光合成できず成長遅れる。

対策: 新芽が出始める時期（春・夏・秋の終わり）に合わせて、幼木には殺虫剤アクトラを葉面散布
白い筋を見つけたら葉の上から幼虫を指で潰してください。夏枝、秋枝を芽掻き、剪定してください。

Q10. カミキリムシの幼虫（テッポウムシ）が侵入したサインを早く見つけるには？

株元や地面に「細かいおがくずやフン（フラス）」が落ちていないかを、頻繁にチェックします。

対策: カミキリムシの幼虫は幹の内部を食い荒らし、最悪の場合は木を完全に枯らせます。

発見したら、ただちに穴へ「園芸用キンチョールE」のノズルを差し込んで噴射してください。

その後、食害された穴は癒合剤（トップジンMペースト）で塞いで保護してください。

予防には、6月頃に幹の根元に「ガットサイドS」などを塗っておくのが効果的です。

Q11. カイガラムシやアブラムシが発生した場合は？（アゲハの幼虫の卵は手で取り除く：捕殺）

対策: 数が少なければブラシ等でこすり落とし、多い場合は薬剤（スミチオン乳剤など）を使用する。

植え替えに関するFAQ

Q12. 鉢植えの植え替えは、どれくらいの周期で行うべきですか？ 土壌環境？

1～2年に1回、一回り大きな鉢（2～3cm大きいサイズ）に植え替えるのが基本です。

対策: 「鉢底から根が出ている」「水が土に染み込みにくくなった」「葉が黄色い」などの症状が出たら、鉢の中で根がパンパンに詰まる「根詰まり」を起こしています。3月、4月の暖かい日に植え替えして。

適切な土壌環境は水はけが良く、土壌pHが6.0前後の弱酸性を維持できる環境が理想的です。

Q13. 地植えにしているレモンを、別の場所に植え替え（移植）することはできますか？

可能ですが、木が大きくなるほど（3年目以降など）難易度が高くなり、枯れるリスクも増します。

手順: 3月の休眠明け直前に行います。できるだけ根の周りの土を大きく塊（根鉢）のまま掘り上げ、太い根を切った分、地上の枝葉も大幅に切り戻して（剪定して）蒸散を抑えます。

移植後は根元をしっかり踏み固め、支柱を立ててたっぷりと水を与えてください。

花が咲かない・実が成らないFAQ レモンは隔年結果

Q14. 苗木を植えて数年経つのに、一度も花が咲きません。なぜですか？

剪定不足と肥料の与えすぎによる栄養成長（木は大きく花が咲かない）が疑われます。日照不足も。

理由: 窒素が多い肥料を多く与え、真上に伸びる徒長枝を選定しないと、まだ木を大きくできると考え、枝葉ばかりを伸ばすし、花芽を作らなくなります（栄養成長）。実生苗は花が咲くまで約10年必要。

対策: 窒素肥料を控え、リン酸やカリ（例よりん等）を多めに与え、木にストレス、適度な乾燥や枝を横に寝かせる枝の誘引をすると、子孫を残そうと花芽が形成されやすくなります。（生殖成長）

Q15. 花は咲くのに、小さな実がすべて黒くなって落ちてしまいます。なぜですか？

開花期の極端な水切れや受粉不良、または寒さが原因です。幼木は来年の成長に期待しましょう。

対策: レモンは1本の木で実がなる自家結実性を持っていますが、風や虫が少ないと受粉がうまく進まないことがあります。開花中に優しく指や筆で花の中央を触って人工授粉を助けてあげてください。

また、開花～結実初期の水切れは一発で落果を招くため、この時期の乾燥は厳禁です。

植えてから2年以内の幼木には雌しべが無い不完全花が咲きやすく、実にならず落下します。

大きくなりすぎ（樹形管理）に関するFAQ

Q16. 地植えのレモンが大きくなりすぎて手に負えません。1.5m～2m程度に低く抑えるには？

中心の幹を低く抑えて3本ほどの太い枝を斜め外側へ広げる開心自然形という仕立て方がおすすめ。

樹高を低く保ちながら、株の内部までしっかりと日光と風を届けることができ、実付きも良くなります。

対策: 3月に真上に伸びる強い枝を切る芯止めし、枝を水平方向へ引っ張って固定する誘引をする。

Q17. 夏の間にもものすごい勢いで真上に伸びた太い枝（徒長枝）はどうすれば良いですか？

対策: 樹形を大きく乱し、養分を無駄に消費するため、付け根から切り落としてください。間引き剪定

例外: もしその方向に新しく骨組み（主枝）を作りたい場合のみ、途中で短く切り戻し剪定して

横枝を出させます。伸ばしたい枝の先端を軽く摘み取る（摘芯）ことで、分岐を促すことができます。